ISSN 1341-6820

Nagoya Urban Institute News Letter

ニュースレター

名古屋都市センター

2011.12 vol.90

活気あふれる「歩行者天国」

Contents

[特集]栄は新しい文化と交流のメインストリート
市民が進める都心のまちづくり
歩行者天国、音楽祭、学生タウン… 1～3
PERSON 4
まちづくり助成団体紹介 5
名古屋都市センター研究成果 6～7
まちづくり来ぶらり 8
なごやのまち今昔 9
活動報告 10～11
私のお気に入りの場所 11
お知らせ 12

[特集]

栄は新しい文化と交流のメインストリート
市民が進める都心のまちづくり

歩行者天国、音楽祭、学生タウン‥‥

左／27年ぶりに復活した栄の「歩行者天国」
中／冬の栄の名物「イルミネーション」
下／人気を集めた「NAGO-1グランプリ」。

都心機能再生をめざす多彩な取り組み

栄地区は、デパート、高級ブランド店、老舗商店、レストランやカフェなどが続く名古屋市の繁華街。長期にわたる景気低迷などで都心機能にかげりが見えていましたが、近年、地域主体の多彩なイベントなどにより再び活力を戻しつつあります。この秋には南大津通で歩行者天国が27年ぶりに復活。ふだんは車の通る広い道路が、散歩や買い物を楽しむ若者や家族連れでいっぱいになりました。栄地区は、地元商店街や市民らによる都心再生の多彩な取り組みが繰り広げられています。

［特集］市民が進める都心のまちづくり

栄地区活性化のシンボルイベント「栄ミナミ音楽祭」

商店街が27年ぶりに歩行者天国を復活

名古屋市にはJR、名鉄、近鉄などが交差する広域的な交流拠点「名古屋駅地区」と、デパート、商店などが集中する商業拠点「栄地区」の2つの都心の核があります。名古屋駅地区は、中部国際空港開港や「愛・地球博」開催に前後して高層ビル建築が相次ぎ、ビジネスや商業機能が拡充。さらに現在も高層ビルの建て替え計画や「ささしまライブ24」の大規模再開発計画が進んでいます。

景気低迷に加え都市機能整備で名古屋駅地区に押され気味の栄地区では、かつてのにぎわいを取り戻そうと商店街、町内会、市民らが手づくりの取り組みを進めています。その代表的なものに多彩なイベントがあります。ことし27年ぶりに復活したのが「歩行者天国」です。1970年、市主催により名古屋で初めての歩行者天国「なごや日曜遊歩道」がスタートしました。高度成長の活気のなか、1日40万人以上の歩行者が大通りにくり出しましたが、交通安全上の理由から84年を最後に中断していました。これをことし秋、地元商店街が主体となって復活させたのです。2012年春からの本格実施に向けた社会実験として、今年9月から11月の日曜日に行ったところ栄の真ん中がふだんの日曜の3倍の人出でにぎわいました。この成功を受け、地元では来年の開催方法を検討中です。

名古屋の魅力発信について話し合う学生たち

「栄ミナミ音楽祭」などが、活性化のシンボルに

同じようにこの秋からスタートしたものに名古屋グルメ選手権「NAGO-1グランプリ」があります。愛知県の地産地消をテーマに名古屋の食の魅力を発信し、地域ブランドを高めようというものです。会場の矢場公園には27店舗が出店。新名古屋グルメのコンテストを行い、記念すべき第1回のグランプリには瀬戸名物の独特な麺を使った「せと焼きそばまつりもり」が選ばれました。

「人と地域の活性化」「新しい文化の創造」をテーマに2007年からスタートした音楽を中心とする一大イベント「栄ミナミ音楽祭」は、すでに栄地区活性化のシンボルとなっています。この春は鈴木雅之、南佳孝ら約180組のアーティストが、矢場公園など全29会場でライブを繰り広げました。

商店街や町内会が中心となり、行政も連携して約20年前にスタートした「イルミネーション」は、栄の冬の夜になくてはならないものとなりました。また学生の自発的な発想から生まれた「にっぽんど真ん中祭り」は、年を追って規模が拡大。財団法人による主催となり、2011年は全国から2万3000人が参加。真夏の太陽の下、観客が栄中心部を埋め尽くしました。

すっかりおなじみとなった「えびす祭り」

学生が地域の魅力を発信

地デジ放送の開始により従来の役目を終えたテレビ塔のスタジオを使って、名古屋の学生たちがインターネット放送「ナゴヤタワーチャンネル」をこの秋、開局しました。グループの名は「Nagoya学生タウン構想推進委員会」。学生の活動によって名古屋の魅力を高めようとする市の「学生タウンなごや構想」に応募したことにより生まれました。学生たちが企画した番組を動画配信サイト「ユーストリーム」を使って生中継していこうというものです。

同委員会は毎週1回全体会議と、タワーチャンネル、観光、交流会など、テーマ別のグループ会議を行い、意見を交わしています。学生の視点で名古屋の魅力を再発見し、情報発信していく計画で、「Nagoya学生タウン」を学生の活動のインフラとし、学生タウンに行けば何かあると思ってもらえるようになりたいと言います。学生たちの取り組みも、栄地区の新しい活力源になりそうです。

トリエンナーレの残したもの

2010年の夏から秋にかけ「あいちトリエンナーレ」により、栄を中心に名古屋のまち全体が現代アートの展示場となりました。屋外展示のメイン会場となったのが長者町と呼ばれる、栄に隣接する錦二丁目一帯です。同地区はビルの空室を作品の展示会場として無償で提供するなど、トリエンナーレに全面協力しました。かつて日本有数の繊維問屋街として繁栄した面影を失いつつあるなかで、トリエンナーレをまちづくりコミュニティを育むチャンスにしようと考えたからです。

錦二丁目は、もともと若手経営者を中心に積極的にまちづくりに取り組んできた地域です。約10年前にスタートさせた「ゑびす祭り」は、今日広く知られるイベントとなっています。そうした土壌にトリエンナーレの残した遺産は小さくありませんでした。現代アートによるにぎわいの経験は、地域にとって大きな自信となり、作家が山車づくりに参加したことでゑびす祭りにも新しい命が吹き込まれました。行政やアーティストとの連携を強めながら、今も独自のまちづくりを推し進めています。

夜の栄を彩る「イルミネーション」

より大きな回遊空間をつくり 都心・栄の活力を復活させたい

南大津通歩行者天国協議会・南大津通活性化協議会　会長
勝田明（かつた　あきら）さん

不景気と老舗大型店の郊外移転などで、栄は都心機能が空洞化してきました。何とか人を呼び戻したい。その一心で商店街や町内会などがいっしょになって取り組んでいます。歩行者天国の復活もそうです。できることは何でもやろうと思っているし、成果も出ています。

大須は若者のまちに変身し、パルコを含め一帯が若者のエリアになりました。若者や庶民のエリアは大須。ブランドエリアは栄。役割分担を明確にし、より大きな回遊空間をつくり、活気のある都市を再生させたいと考えています。